

**【報告】  
市町連  
町内会活動  
研究会**  
2013.11.4



11月4日、黄金ふれあいセンターにて町内会長・自治会長や役員を対象に「町内会活動研究会」を開催しました。研究会は、町内会・自治会活動の活性化を図ることなどを目的に毎年開催しており、今年は、東京都立川市大山自治会の佐藤会長と意見交換を行いました。

災害時に必要な個人情報などのようにしているのかという質問に対して、佐藤会長は「会員の命を守るためには個人情報の把握は絶対必要。管理の仕方や必要性などを一人ひとりに納得してもらうよ

う、はたらきかけなければ」と地域全体で災害に強いまちづくりに取り組むことが必要と力説します。加入率を向上させるためにも「転入された方に自治活動を丁寧に説明し理解してもらおうこ



とが大切」とし、大山自治会では「定期的に転入者を対象とした親睦会を開催している」などの事例紹介を交えながら、佐藤会長と活発に意見交換を行いました。また、佐藤会長は「町内会活動はそこに住む人々のつながりが大事。一人ひとりが地域のためにできることは何かを考えていくことが大切」と訴えました。

**【お知らせ】防犯灯がLED化されました**

市内にある全ての防犯灯のLED化工事が概ね完了しました。今までの防犯灯に比べて、環境への負荷が低減され、明るく夜道を照らすLEDタイプに交換されました。近くの防犯灯で異常を見つけたら市役所へ連絡してください。◎夜になっても点灯しない ◎日中も点灯している ◎破損しているなど

連絡先：市役所生活安全課  
TEL 3 3 - 3 1 3 1  
(内線 1 1 8 1)



**■編集後記**  
◆本年も「こんな素晴らしいことをしている」という事例を掲載しますので、是非活動の参考に！(野)  
◆生きることは、世間に借りをつくること。生きていくことは、その借りを返すこと。(今)  
◆編集作業は苦勞します。編集にあたり話し合いをするものの結果は、いつも事務局任せ。反省。(開)  
◆市民の皆さんの参考となる事例などを紹介する広報誌です。今後もご一読を！(三)  
◆昨年元日、今年と同積雪ですが、月末には2倍に！でも、今年は体が2倍返し出来ず！(松)

**募集!**  
紙面で紹介したい「ユニークな活動をしている人」「がんばる人」の情報をお寄せください。  
発行  
恵庭市町内会連合会  
広報部会  
事務局  
恵庭市役所  
市民活動推進課内  
(33-3131)



「おはようございます」と元気な声が聞こえる交差点がある。黄金南曙町内会の工藤さんは5年前から交通安全推進員として毎朝7時から8時まで、1時間に800台もの車が通行する黄金地区の交差点で通学する子ども達が交通事故に遭わないよう見守っている。

傘を差して視界が狭くなる雨の日、足元が凍結する時期は、特に周囲に気を配って誘導している。冬は登校時間前に歩道や交差点の除雪や滑り止めの砂を撒く。「歩行者も車も急には止まれない。お互い十分に気をつけてほしい」と工藤さん。

交差点で誘導しながらスクールバスで登校する子ども達の見守りもおこなう。バスに乗りおくれた子を学校まで送ることもあるそうだ。

毎日立っていると運転手や子ども達の特徴もわかるようになるという。こうした経

**地域の大人が  
しっかり見守ることが大切**

験を活かしながら誘導しているが、これまで2度ほど身をていして、車を止めた経験がある。「危険な体験をしたこともあるけど、子ども達の安心と安全のために責任をもって立っているよ」と工藤さん。

「地域の大人が、しっかり見守ることが大切」。しかし、こうした活動に取り組んでくれる人が少ないことが悩みだという。「大変だけど笑顔で登校する子ども達を見ると朝から元気をもらえるよ」と笑う。一箇所でも多くの交差点で地域の大人達が見守り、こうした思いを共有できれば。そう願って今日も活動を続けている。



**工藤 福逸 さん**  
黄金南曙町内会  
交通安全部長

# RELAY INTERVIEW

## リレーインタビュー

### 地域の子も達は 地域の大人達が育てる

西根輝雄さんは4年前から『文京子ども太鼓』の指導者として、地域の子も達に太鼓の魅力を伝えている。町内会の盆踊りへの参加者が少なくなってきたことがきっかけ。大町や文京町の小中学生16名が週4回、神社で猛練習を重ね、今では、盆踊りのやぐらの上で、子ども達の太鼓が鳴り響く。演奏の場は、このほかにも老人ホームなどでも披露し、大人達は裏方としてサポート役に徹しているという。

「地域の子も達は、地域の大人達が育てる」と西根さん。子ども達が、安心して成長出来る環境を作るのが大人達の役目だと考えている。全員の太鼓の音が揃ったとき、とても楽しく嬉しい瞬間でやりがいを感じる。将来、子どもどものとき「やぐらの上で叩いて楽しかった」ことを思い出してくれたらと願いながら指導を続けている。



文京町内会  
西根 輝雄さん



### 事例 紹介

## 東京都立川市大山自治会 会員の繋がりで孤独死ゼロ



講師  
佐藤 良子氏



◎プロフィール  
東京都立川市の大山同地（1600世帯、4000名）で自治会会長として活躍。加入率100%、孤独死ゼロを実現。行動派の運営で、日本一の自治会と称される大山自治会を取りまとめている

11月4日、東京都立川市で加入率100%を続けている大山自治会会長佐藤良子氏を講師に招いて、恵庭青年会議所主催の「地域創造フォーラム」が開催されました。佐藤会長は自治会活動での体験談等を交え、「自治会（町内会）は、人がつながる場所」「まちをつくるということは人をつくること」をキーワードに、一人ひとりが地域にとって必要であることや地域全体で見守りを行うことの重要性などを語っていただきました。

佐藤会長は「人が繋がる」ため、「高齢者のたまり場づくり」や、青年層と子ども、高齢者が集う行事の開催、パソコンや大作業、着付けなど会員の特技や能力を登録してもらい「人材バンク」、電気・水道・ガスの検針員、新聞配達員と連携した「見守り隊」など多くの事業を手がける。こうした取り組みを精力的に行ってきた結果、孤独死ゼロを実現しています。

自治会活動は「元気で陽気に根気よくやる気をもってみんなが頑張ること」でまちは元気になると講演されました。



### おもしろ 恵庭学

第4回

村民が運んだ発電機は今も現役  
文責:恵庭昭和史研究会 林 壽男

恵庭市街地を流れる漁川には二つの発電所があります。上流が恵庭発電所、下流は漁川発電所と言います。漁川発電所は大正11年に建設。当時、恵庭の人口は1,200世帯、7,000人ほどでしたが、これによって初めて恵庭村に文明の灯がともりました。この発電機は建設当時、江別から千歳川をさかのぼり漁太の附着場に陸揚げされ、村民の手で運ばれたと言います。90年前に設置されたフランシスタービンは今も現役です。



現在の漁川発電所